

## ゆっくり、対話を楽しみながら、本質に迫る

— 一定時制高校の教室から —

館林高校 定時制 吉田秀司

### 生徒主体の授業は理想だけだと

教員生活も最後の年を迎えている。5年前に定時制高校に異動となって、ある意味自分の理想であった社会の授業が出来ると思わなかった。

今、「アクティブラーニング」に文科省も県教委も力を入れているが、どうなるのだろう。形式化していきそうな気がする。

10年ほど前、「学びの共同体」が話題となった。こういう生徒主体の授業は理想だけれど、現実には難しいなど当時思った記憶がある。でも、自分の授業に少し変化が現れた。それまで生徒に質問したとき、答えが返って来ないとすぐ自分が答えを言っていた。でも最近は違う角度からの質問を試みたり、具体的なイメージが湧くような話をしてみたりと生徒との対話の時間が増えた。このことが現在の定時制での授業につながっていると思う。「学びの共同体」の影響を受けている。

教員になってすぐ、今から30年ほど前、高等学校教職員組合の青年部教育研究集会での瀧口典子さん(現ぐんま教育文化フォーラム代表)の模擬授業が懐かしい。考えることがこんなに楽しいとは。鮮烈な記憶として残っている。歴史の授業でなぜこういうことになるのだろうか、と考えるのは生徒も楽しいだろう。

これまで赴任した全日制高校も、現在の定時制高校も「基礎的」な知識は不足している。国名を聞いて「ヨーロッパ」と答える子が随分いた。でもだからといって「地名」「人名」「いつ何があったか」というだけの年号などを憶えることに限られた時間を費やしたくない。

### 対話のある定時制の授業

定時制では10人前後のクラス。少人数だ。

私からの問いかけに対して、生徒が考えて答えてくれる。うれしい。そうやって少しずつ授業が進んでいく。

自分が担任をしたクラスでは、しっかり考えて答えてくれるA君、思いつくままに関係ないことをすぐに答えるB君、明るくはっきり答えてくれ、女の子のまとめ役だったCさん、ほとんどしゃべらなかつたけど成績は4年間トップだったDさん、みんな中学時代は不登校だった。他校を1年生の時やめて入学してきたE君は、昼間土木現場で働き、疲れてよく寝ていた。でも、時々素晴らしい見解を述べてくれた。

例えば世界史の一場面。

私「チンギスハンは遊牧民族をまとめ、東アジアから東ヨーロッパまでを支配する大帝国をつくりあげ文明が発達した。アレクサンドロス大帝国やローマ帝国もそうだったが、広大な国家ができるとなぜ文明が進歩するのだろうか。」

生徒「大きいから」

私「大きいとどうなる？」

生徒「人が多い」

私「確かに。人が多いとどうなる」

生徒「う～ん」(難しい質問だ。でも一生懸命考えてくれる生徒がクラスにいるのだ。)

生徒「経済が発展する」

私「昔は多くは農民だったが、金を儲ける人たちもいたよね。どんな人。」

生徒「商人」

私「どんな商売が儲かる？」

生徒「う～ん」

私「シルクロードって何だった？」

生徒「絹の道」

私「何それ？」

生徒「アジアの絹をヨーロッパに持って行って

高く売った。」  
私「その商売、なんて言うんだっけ」  
生徒「貿易」  
私「遠くに行くのにたくさん国があったらどうする？」  
生徒「う～ん」  
私「今外国に行くには何が必要？」  
生徒「パスポート」  
私「外国に行くには何かと面倒だ。昔はもっと大変だったかも知れない。広い範囲が一つの国だと？」  
生徒「行きやすくなる」  
私「そう。人々の交流が活発になるよね。」(もう少し続いていく)



## 自分の力が試されている

今年の新入生は7人。定時制に来てから最も少ないクラス。不登校だった子が3人、外国籍の子が2人いる。問いかげをしてすぐ声が聞こえてくることはない。みんな静かだ。

例えば現代社会の授業で。

私「国会って何するところだっけ」  
生徒「・・・」(いつものこと。)  
私「国会ってなんだっけ」教壇から指名することはない。生徒のすぐそばにいて顔を見ながら「国会って何かきめるところだったよね。」  
外国籍のF君「法律」。  
私「そうだ。内閣ってなんだった？」  
F君「(無言)」  
私「法律にもとづいて政治をするところだった

よね。内閣の代表者って誰だっけ。」

F君「アベさん。」  
私「そう。何という立場。」  
F君「う～ん・・・首相」  
私「そう。内閣総理大臣だよ。」(首相という言葉が出てきたことですごく嬉しい。)  
私「国には大統領がいる国といない国があるんだ。大統領って知ってる？」  
Gさんのそばに行く。Gさんも外国籍。  
私「大統領って聞いたことある？」  
(前の憲法第9条のところで「自衛隊って知ってる？」と聞いたら「知らない」と言った。その時は自衛隊とはね～と説明した。)  
Gさん「う～ん」  
私「プレジデント」  
Gさん「あ～知ってる。」Gさんは英語の方がわかる場合もある。

今日は議院内閣制の授業。内閣不信任決議と衆議院の解散権について話す。多分3割も理解出来ていないかもしれない。でもしっかり「授業」をやるのだ。日本語の授業ではないし、自分が大切だと考えていることはわかってもらいたい。こういう授業はたいへんだけれど、やっているのはすごく楽しい。

生徒と話しをしながら、「権利」「義務」「経済」など当たり前に使っている言葉をどう説明するか、自分の力が試されている気がする。そして何より生徒はみんな一生懸命で授業に向き合ってくれている。

## 思い描いていた授業に近い定時制

社会科教師になったときから、物事には「原因」「結果」「影響」があって、その積み重ねが社会であるし、歴史だと考えている。問題はどうしたら授業で生徒にその事を伝えられるかということだった。これまでの教員生活でどこまでできたかは自分でもわからない。ただ、今の定時制の授業が最も自分が思い描いていた授業に近いと考えて授業をしている。定時制高校に来てよかったなと思っている。